

組織指導におけるリーダーシップに焦点を当てた事例研究とその複合的考察

A case study focusing on the leadership for managing a group and the compound study

1K07B196-2 松本龍太

指導教員・主査 堀野博幸 先生

副査 石井昌幸 先生

【目的】

リーダーシップとは、かねてよりあらゆる分野で注目を集めている能力のひとつであり、特に近年では杜撰な管理能力が原因で大きな事件が目立ち、経営者はもちろん国政にかかわる人間にもリーダーシップとは何か、改めて問われ直されている風潮にある。またドラッカーをはじめとしたマネジメントに深くかかわる自己啓発本が好調な売れ行きを見せているにつけ、スポーツにおける指導者、官僚や経営者など、それぞれの活躍する分野を問わずそのリーダーシップ或はマネジメント能力が非常に注目を浴びているようにも感じる。

しかしリーダーシップとは万人がもとより兼ね備えている能力ではなく、先天的にリーダーの立ち位置を担う人間、その経験から後天的にリーダーとなる人間がいる。特に前者においては生まれながらに備えられるか否かで決まってしまう部分である為、ある意味で決定的な条件とも言える。しかし先天的リーダーシップとはいっても、それは「時代状況や環境的条件に適合性」（石井、2010）に即して初めてリーダーたらしめられるものであり、単純に個人の素質だけではなく当人を取り巻く環境についても十分に考慮する必要がある、そういった意味でもやはり先天的リーダーシップは決定的な条件と言える。

そこで、3名のスポーツ指導者を対象としたインタビューからの質的分析によりそれぞれのリーダーシップの在り方を捉え、それを他学問の先行研究から複合的に考察することで、これまでのスポーツ場面や政治場面といった特定の学問分野に限ることのないリーダーシップ像を示唆することが本論文の目的である。

【方法】

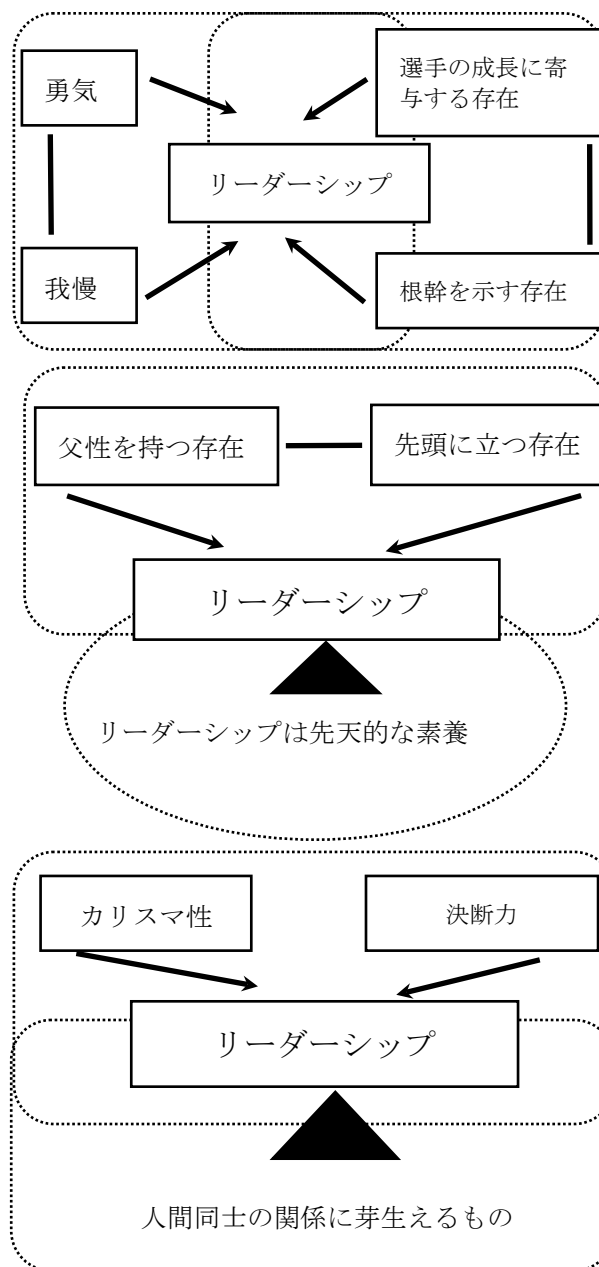
調査は北村ら（2007）の手法に倣い1対1の深層的（in-depth）、自由回答型（open-ended）、半構造的（semi-structured）インタビューにより実施した。

インタビューによって得られたデータは直ちに筆者自身の手によってテキスト化が行われた。なおイタリア語で行われた2名のインタビューのテキスト化に関しては、現地イタリア人による精査が入っており、和訳に関しては筆者自身のみで行った。北村ら（2007）による先行研究を元に①カテゴリー概念化：インタビューの質問肢である「リーダーシップとは何か」の本質的な回答をカテゴリーとして最初に作成、②標題作成：テキスト化されたインタビューデータを、1つ以上の概念を含む意味内容要素（meaning unit）に分け、一つひとつに標題を設定、③サブカテゴリー作成：全ての意味内容要素を比較し、類似した内容をもつ意味内容要素をそれぞれのデータが得られた文脈を考慮しつつ、上位概念で括れるサブカテゴリー

ーへと再編成し、①で作成されたカテゴリー概念に繋がるようそれぞれのサブカテゴリーを作成、の3つのステップから分析が行われた。その後それぞれのリーダーシップメンタルモデルを作成し、各分野から複合的考察を行った。

【結果】

3氏それぞれのリーダーシップメンタルモデルは以下の通りである。



【考察】

指導者たちは選手たちに一定の親的要素を持つことが分かり、選手や周囲との関係にリーダーシップの要因があるとしていることが明らかになった。また一部の指導者はリーダーシップの先天性を明示しており、自然発生的にリーダーがうまれる点を強調していた。